

写真



写真 (No.116⑦)  
波蝕棚の地質の状況。  
嘉陽層の互層である。



写真 (No.116⑧)  
波蝕棚表面の様様。

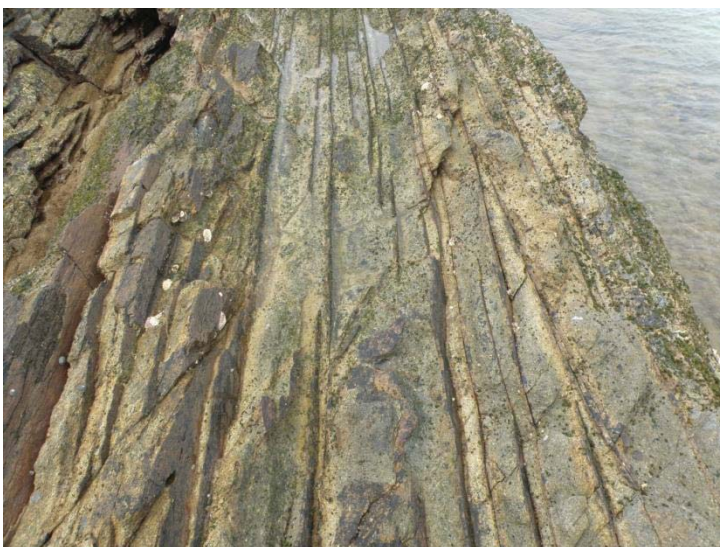
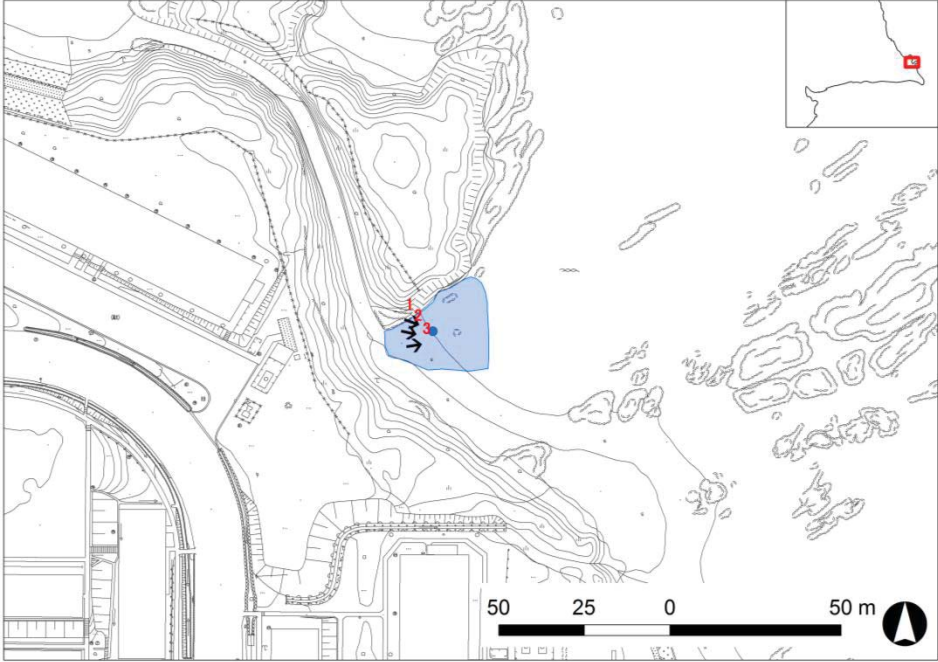


写真 (No.116⑨)  
同上。

付表- 4.2.2.27(1) 重要な地形・地質の記録の整理結果 (No. 118)

No.	118
種類	波蝕棚
調査年月日	平成 26(西暦 2014)年 6 月 27 日
概要	<p>辺野古崎の北西約 460m に位置する波蝕棚である。</p> <p>平成 20 年調査時の写真と同様、波蝕棚の大部分が砂礫に埋めつくされ、波蝕棚の小高い部分が見えるに過ぎない。</p>
位置	 <div data-bbox="406 1218 842 1391" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>【No.118 観測点座標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・緯度:26° 31' 28.0038"</li> <li>・経度:128° 03' 02.9344"</li> <li>・標高(EL):0.070m</li> <li>・標高(DL):1.233m</li> </ul> </div>
形状・構造	<p>平成 20 年当時の写真と比較すると、海岸の砂礫が堆積し、波蝕棚を覆っている。砂の他に、5~20cm 大の礫もかなり堆積している。</p>
規模	<p>波蝕棚が砂礫に覆われていてわかりにくい、波蝕棚の大きさは 20~30m 四方程度はあったものと考えられるが、現在は突出した岩がわずかにみられる程度である。</p>
その他 (保存状態)	<p>平成 20 年当時写真に写っていた波蝕棚は砂礫の堆積により、突出した岩がわずかに見えるに過ぎない。波蝕棚の見え方は、海岸線の砂礫の堆積や侵食に左右されるものと考えられる。</p>

代表地点の周辺4方向からの写真

【No.118 観測点座標】

- ・緯度:26° 31' 28.0038"
- ・経度:128° 03' 02.9344"
- ・標高(EL):0.070m
- ・標高(DL):1.233m



調査地点:No.118(波蝕棚)

撮影日時:2014.6.27 13:31



位置情報:緯度 26° 31' 27.85"  
経度 128° 03' 02.74"  
撮影方向:北北東



位置情報:緯度 26° 31' 27.82"  
経度 128° 03' 03.15"  
撮影方向:西南西



位置情報:緯度 26° 31' 28.23"  
経度 128° 03' 03.19"  
撮影方向:南西



位置情報:緯度 26° 31' 28.14"  
経度 128° 03' 02.82"  
撮影方向:東

写真

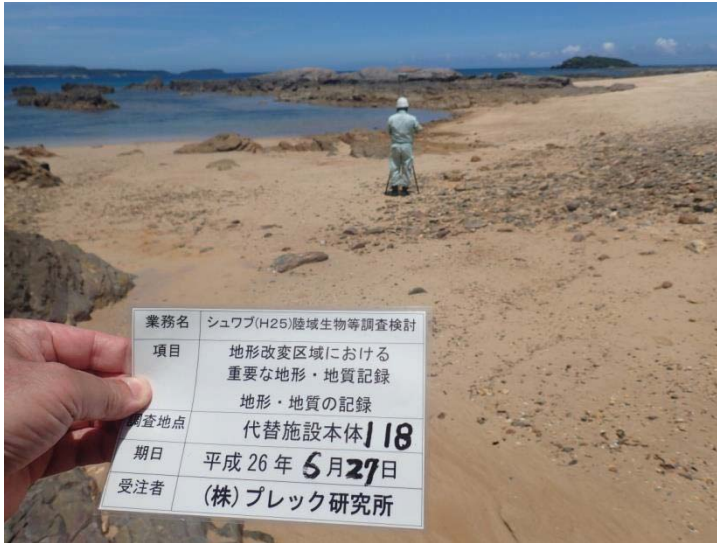


写真 (No.118①)  
波蝕棚のある方向  
を陸側から撮影し  
た。  
砂礫の堆積が著し  
く、波蝕棚の突出し  
た岩が見えるに過ぎ  
ない。

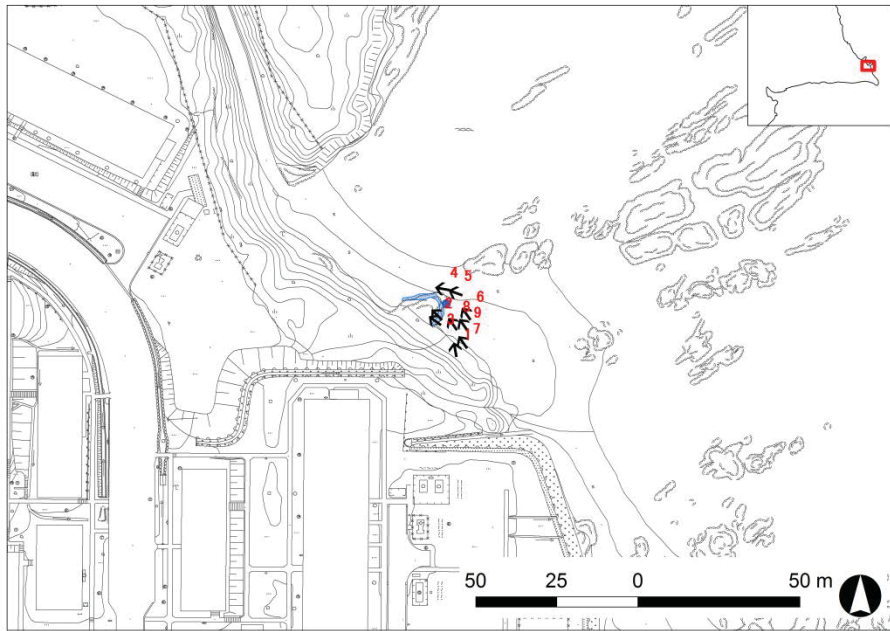


写真 (No.118②)  
同上。  
砂のほかにも比較  
的大きな礫も堆積し  
ている。



写真 (No.118③)  
同上。

付表- 4.2.2.28(1) 重要な地形・地質の記録の整理結果 (No. 119)

No.	119
種類	嘉陽層の露頭(褶曲)
調査年月日	平成 26(西暦 2014)年 6 月 27 日
概要	<p>辺野古崎の北西約 430m に位置する砂浜に突出した岩陰に見られる嘉陽層の露頭である。</p> <p>東向きの露頭には褶曲はみられず、北北西に面した露頭の下部に小規模な褶曲がみられる。</p>
位置	 <div data-bbox="406 1317 842 1489" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>【No.119 観測点座標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・緯度: 26° 31' 26.8460"</li> <li>・経度: 128° 03' 04.0433"</li> <li>・標高(EL): 1.318m</li> <li>・標高(DL): 2.481m</li> </ul> </div>
形状・構造	<p>砂浜に突出した岩の先端部の高さ約 3m の崖の両側に嘉陽層の露頭がみられる。露頭の幅は約 20m である。露頭の周辺は砂が堆積し、東側の崖面には褶曲はみられず、北北西に面した崖の下部に小規模な褶曲がみられる。</p>
規模	<p>露頭の幅は約 20m、高さは約 3m である。砂浜に突出した岩の北北西面に小規模な褶曲がみられるに過ぎない。</p>
その他 (保存状態)	<p>砂の堆積により埋没し、褶曲部分が見えにくくなっている。</p>

代表地点の周辺4方向からの写真

【No.119 観測点座標】

- ・緯度:26° 31' 26.8460"
- ・経度:128° 03' 04.0433"
- ・標高(EL):1.318m
- ・標高(DL):2.481m



業務名	シュワブ(H25)陸域生物等調査検討
項目	地形改変区域における 重要な地形・地質記録 地形・地質の記録
調査地点	代替施設本体119
期日	平成26年6月27日
受注者	(株)ブレック研究所

調査地点:No.119(嘉陽層の露頭(褶曲))

撮影日時:2014.6.27 11:28



位置情報:緯度 26° 31' 26.87"  
経度 128° 03' 04.36"  
撮影方向:南西

位置情報:緯度 26° 31' 26.69"  
経度 128° 03' 04.24"  
撮影方向:北



位置情報:緯度 26° 31' 26.62"  
経度 128° 03' 04.04"  
撮影方向:北

位置情報:緯度 26° 31' 27.22"  
経度 128° 03' 04.11"  
撮影方向:南

写真



写真 (No.119①)  
南向きの露頭。  
嘉陽層の互層である  
が、顕著な褶曲構造  
は確認できない。



写真 (No.119②)  
同上。  
嘉陽層の上部に黄  
褐色を呈する洪積世  
堆積物が不整合に  
のっている。



写真 (No.119③)  
同上。

写真



写真 (No.119④)  
南向きの露頭の向  
かって左側に大きな  
節理面がみられる。



写真 (No.119⑤)  
同上。  
節理面の走向・傾斜  
は N70W、40° で、  
西向きに大きく傾い  
ている。



写真 (No.119⑥)  
同上。  
写真下のほうに右上  
から左下に向かう斜  
めの断層がみられ  
る。



写真



写真 (No.119⑦)  
北向きの露頭。  
地質は嘉陽層の互層である。

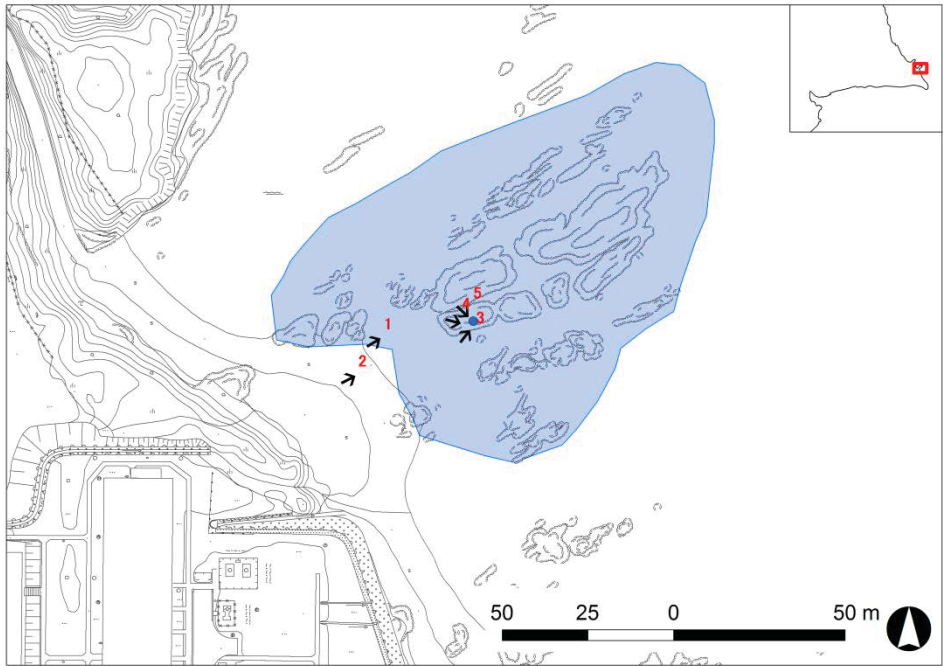


写真 (No.119⑧)  
同上。  
露頭の下部にみられる小規模な褶曲。  
堆積した砂で埋もれつつある。



写真 (No.119⑨)  
同上。

付表- 4.2.2.29(1) 重要な地形・地質の記録の整理結果 (No. 120)

No.	120
種類	波蝕棚
調査年月日	平成 26(西暦 2014)年 6 月 27 日
概要	<p>辺野古崎の北西約 430m に位置する砂浜の沖合の波蝕棚。                  No.119 の嘉陽層の露頭の沖合にある波蝕棚で、No.121 の波蝕棚に連続している。波蝕棚の表面が浸食されて平滑で、模様があるのが特徴である。</p>
位置	 <div data-bbox="406 1323 842 1496" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>【No.120 観測点座標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・緯度:26° 31' 27.3799"</li> <li>・経度:128° 03' 06.1118"</li> <li>・標高(EL):2.394m</li> <li>・標高(DL):3.557m</li> </ul> </div>
形状・構造	<p>No.119(嘉陽層の露頭(褶曲))の沖合に形成された波蝕棚である。位置を確定するための測量は高さ約 3m の上部が平坦な大岩の上で行った。周辺の波蝕棚が激しく侵食されてゴツゴツしているのに対し、この大岩の表面は比較的滑らかで、赤褐色の模様がみられるなど、周辺の暗褐色の岩との対比が特徴的である。海岸線寄りには砂が堆積し、波蝕棚は埋もれている。</p>
規模	<p>海岸線に沿って幅約 70~80m、沖合に向かって 100m 以上の範囲に広がり、その一部が海面上に現れているほか、海岸線付近は砂で埋もれている。</p>
その他 (保存状態)	<p>保存状態は比較的良好であるが、海岸線沿いは砂が堆積し埋もれている。</p>

代表地点の周辺4方向からの写真

【No.120 観測点座標】

- ・緯度:26° 31' 27.3799"
- ・経度:128° 03' 06.1118"
- ・標高(EL):2.394m
- ・標高(DL):3.557m



業務名	シウフ(H25)陸域生物等調査検討
項目	地形改変区域における 重要な地形・地質記録 地形・地質の記録
調査地点	代替施設本体/20
期日	平成26年6月27日
受注者	(株)ブレック研究所

調査地点:No.120(波蝕棚)

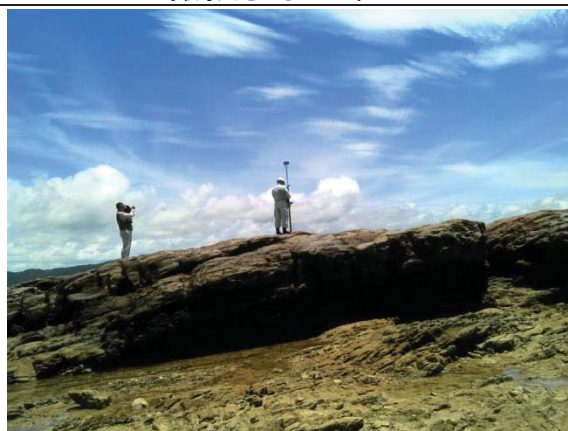
撮影日時:2014.6.27 11:41



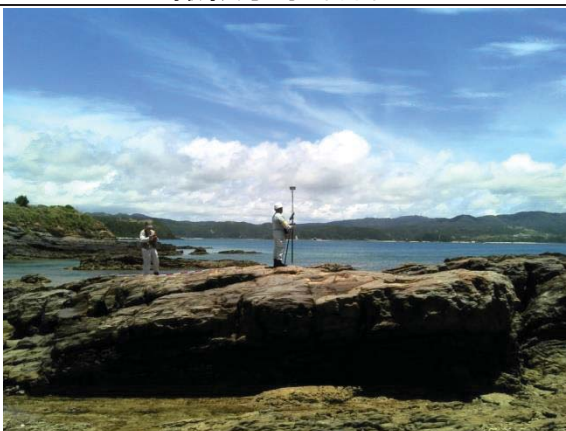
位置情報:緯度 26° 31' 27.11"  
経度 128° 03' 05.60"  
撮影方向:北東



位置情報:緯度 26° 31' 27.62"  
経度 128° 03' 05.95"  
撮影方向:東南東



位置情報:緯度 26° 31' 26.96"  
経度 128° 03' 06.07"  
撮影方向:北



位置情報:緯度 26° 31' 27.02"  
経度 128° 03' 06.29"  
撮影方向:北北東

写真

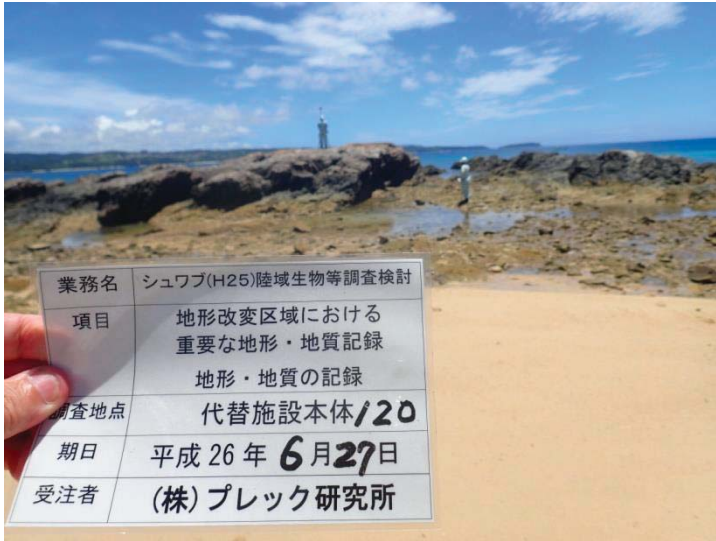


写真 (No.120①)  
No.119 の嘉陽層の露頭からみて、砂浜を挟んで沖合にある小高い岩塊を中心とする波蝕棚である。



写真 (No.120②)  
同上。

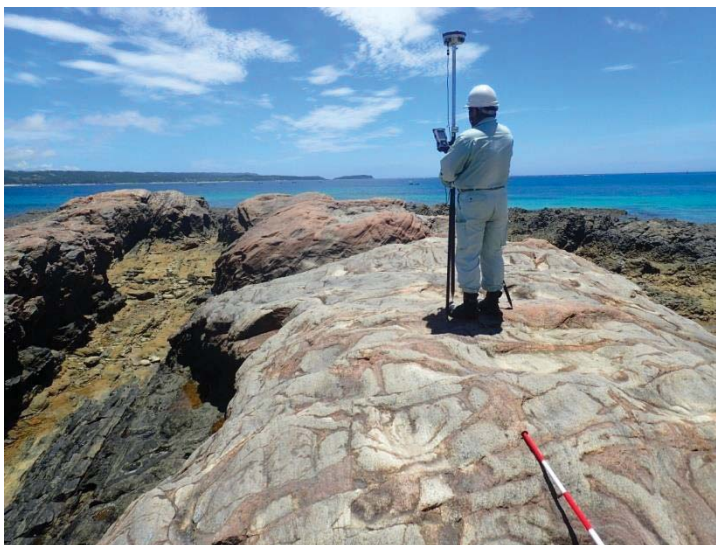


写真 (No.120③)  
波蝕棚の上面は浸食されて平滑であるのが特徴である。表面に赤褐色の模様がみられる。

写真

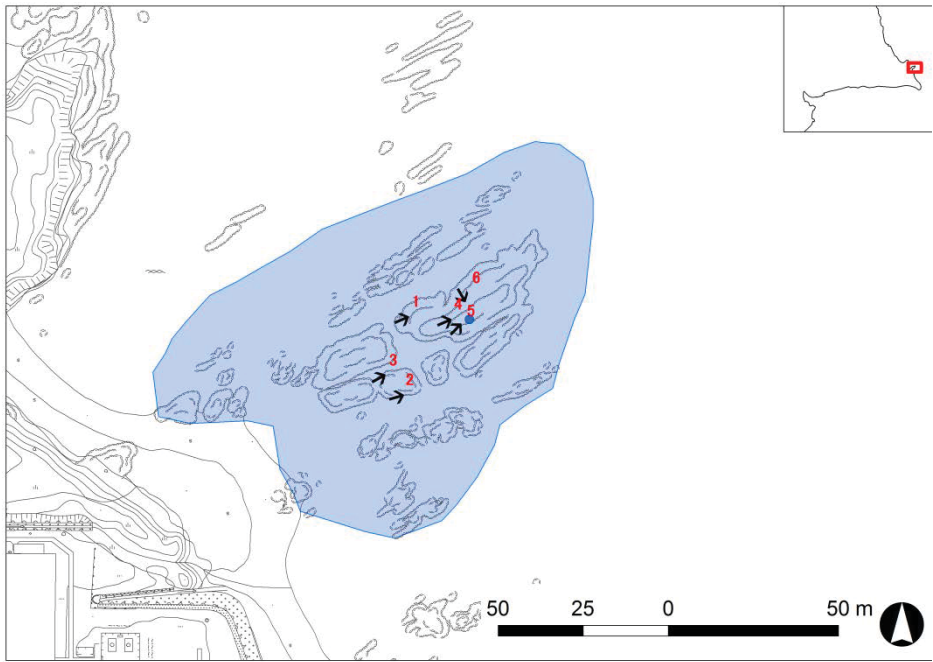


写真 (No.120④)  
波蝕棚の表面は平滑に浸食され、赤褐色の模様がみられる。  
嘉陽層は付加体として形成され、その過程でかなり変成作用を受けている。一部の砂泥互層には火成岩などの貫入も考えられ、その影響で、砂泥互層の中には風化の過程でオニオンストラクチャー(タマネギ状風化殻)が形成されることがある。



写真 (No.120⑤)  
同上。  
赤褐色のリング状の模様は、風化の過程で形成された風化殻(タマネギ状構造)の横断面と考えられる。

付表- 4.2.2.30(1) 重要な地形・地質の記録の整理結果 (No. 121)

No.	121
種類	波蝕棚
調査年月日	平成 26(西暦 2014)年 6 月 27 日
概要	<p>辺野古崎の北西約 430m の位置にある波蝕棚であり、No.120 の波蝕棚の沖合に連続する。</p> <p>これらの波蝕棚は性状もよく似ており、一体に捉えるべきである。</p>
位置	 <div data-bbox="411 1211 847 1384" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>【No.121 観測点座標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・緯度: 26° 31' 28.1266"</li> <li>・経度: 128° 03' 07.2147"</li> <li>・標高(EL): 3.059m</li> <li>・標高(DL): 4.222m</li> </ul> </div>
形状・構造	<p>No.120(波蝕棚)に連続し、その沖合に北北西～南南東方向に波蝕棚が広がり、比較的高い部分が海面上に出現している。No.120と同様、表面が比較的滑らかで、赤褐色を呈し、周辺の暗褐色の波蝕棚との対比が明瞭である。位置を特定するための測量は、No.120と同様、高さ約3mの大岩の上で行った。No.120と同様、表面に模様がみられる。</p>
規模	<p>No.120の波蝕棚に連続し、幅約70～80m、沖合に100m以上の範囲で広がっており、比較的高い岩が海面上に出現している。</p>
その他 (保存状態)	<p>保存状態は比較的良好である。</p>